



## 打ち捨てられたものへの眼差しを問い直す

柳澤 田実

ゴシック建築の装飾に欠かせないガーゴイルが北方の土着文化に由来すると言われるように、キリスト教世界における怪物は、多くの場合、「異教」世界と結び付けられてきた。ヴァールブルグ、バルトルシャイテス、クリステラーらは、怪物や異形に、キリスト教に抑圧された「異教」的存在の復活を見出している。他方、歴史上「怪物」とみなされたフリークス（畸形）についても、レスリー・フィードラーをはじめ優れた著作が存在する。ミシェル・フーコーもまた、『異常者たち』のなかで、フリークスが「怪物」として医学的・法的に位置づけられていった経緯を論じた。怪物や異形について論じる上述の研究者・思想家たちは、キリスト教が規範的（ノーマル）ではない存在を抑圧し、迫害したというパースペクティヴを共有している。キリスト教の伝統のなかに、虐げられる人々と共に生きる実践が一貫して存在し続けていることを思えば、彼らの議論が一面的なのは間違いがない。しかし、にも拘わらず、キリスト教神学が形式化・制度化される過程で、その形式には収まらない存在がアブノーマル＝異常なものとして見出され、しばしば救済の範囲外に置かれたことを証言する彼らの研究は、未だに示唆的であり続けている。

以上のような図式は、映画というジャンルのなかで、規範的善悪とそれを逃れるものについて思考するためにも有効である。いわゆるホラー映画のなかには、悪魔との対決と最終的な救済というキリスト教的ドラマツルギーによって構成された作品と同時に、明らかにそのような救済の論理からはみ出してしまった、アブノーマル＝「異常」な存在者を扱ったものが数多く見られる。優れた作品が多数制作された70年代で言うならば、キリスト教的救済に回収されるのが「エクソシスト」（1973年）や「オーメン」（1976年）であり、これらに対して、救済の範囲外を主題化するのがジョージ・A・ロメロの「ゾンビ」（1978年）とトビー・フーパーの「テキサス・チェーンソー・マサクル（邦題：悪魔のいけにえ）」（1974年）である。ニューヨークのMOMAにも収蔵されているロメロ（収蔵されているのは処女作（1968））とフーパーの作品は、私たちの規範意識に対して極めて鋭い問題提起をしている。彼らが描くのは、神と対決する強大な力としての悪魔やアンチキリストではなく、徹底して「人間」である。ロメロはゾンビという生きる屍をアレゴリカルに用い、消費社会に生きる人間の愚かさを描いている。方やフーパーは、グローバル経済によって職を追われた田舎の失業者家族が、生存のために殺戮を繰り返す物語をドラマ化した。彼らの作品は、暴力の犠牲者が、明確な悪意などないままに別の暴力の主体になってしまうという事実を私たちに知らせる。その描写は悲惨でありかつ滑稽でもある。チェーンソーをふりまわすレザーフェイスは、なぜかおばさんパーマをあてエプロンをしており、その姿は張り切って家庭を切り盛りする「お母さん」のようである。実際、追い詰められたレザーフェイスの家庭にとって、殺人は正統な家計（オイコノミア）の維持なのである。もちろん殺人という行為はいかなる理由によっても決して正当化されるべきではない。しかし、こうしたアイロニカルでありかつデリケートな表現は、「異常」者たちに対するフーパー自身の強い共感が生み出したものである。「正常」から逸脱してしまった者に対するシンパシーこそが、「テキサス・チェーンソー・マサクル」の芸術性の源泉になっているのは間違いがない。本作品でレザーフェイスの兄を演じたエドウィン・ニールは、精神を病む自らの甥を役作りの参考にしたと述べた上で、以下のように言った。「彼は人を恐れているだけで、決して人を傷つけない。なのに、家族は皆彼が殺人鬼にならないかと恐れている」。

長らくもめていた著作権問題をクリアし、「テキサス・チェーンソー・マサクル」は今年DVD化された。猥雑なB級ホラーという先入観を捨て、ぜひ多くの人々に観ていただきたいと願っている。この作品は、イエスが歩み寄ったであろう、打ち捨てられた人々についての映画である。

(YANAGISAWA, Tami: 人文学部講師)

| 日本カトリック界・日本の動き |                | 主要なカトリック逐次刊行物の動き(その1)    |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|----------------|----------------|--------------------------|--------------------|---------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1881(明治14年)    |                | 公教萬報<br>(1881.5~1885.4)  | 聖教雑誌<br>(1881.7~9) |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1890(明治23年)    |                | 天主之番兵<br>(1885.5~1889.6) |                    | 公教雑誌<br>(1889.11~1891.7)  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1891(明治24年)    |                |                          |                    | 公教學術雑誌<br>(1891.8~1892.2) |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1900(明治33年)    |                |                          |                    | 日本公教雑誌<br>(1892.4~1893.4) |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1901(明治34年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1910(明治43年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1911(明治44年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1920(大正9年)     |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1921(大正10年)    | 1923.9.1 関東大震災 |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1930(昭和5年)     |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1931(昭和6年)     |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1940(昭和15年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1941(昭和16年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1950(昭和25年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1951(昭和26年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1960(昭和35年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1961(昭和36年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1970(昭和45年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1971(昭和46年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1980(昭和55年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1981(昭和56年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1990(平成2年)     |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1991(平成3年)     |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2000(平成12年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2001(平成13年)    |                |                          |                    |                           |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |





## 「南山大学図書館が所蔵するキリスト教関係逐次刊行物について」

紅露 剛、近藤 幹夫

### はじめに

本誌『カトリコス』では過去に17号(2002年11月発行)および18号(2003年11月発行)において明治期から大正・昭和期におけるカトリック逐次刊行物の流れに沿って、日本におけるキリスト教布教の歴史とともに、当時発行されていた逐次刊行物(雑誌・新聞など)を紹介した。

今号では、過去2編のまとめとして、南山大学図書館で収集所蔵している資料を中心に、発行された当時、社会に大きな影響を与えたと考えられる逐次刊行物の紹介と若干の解題をこの紙面を借りて行いたい。また、今号では一誌毎に解題を記すのではなく、明治期から大正期にかけてのカトリック逐次刊行物の出版小史を概観できるよう、歴史順に資料を紹介する。なお、本学図書館所蔵情報のデータは2007年9月30日現在のものである。

### 主要な日本のカトリック関係雑誌の変遷

明治期に創刊されたカトリック関係の雑誌として真っ先に挙げられるのが、東京浅草で発行された『公教萬報』と京都で発行された『聖教雑誌』の2誌である。

小池豊範編集の『公教萬報』は1881(明治14)年に創刊され、その後リョール主幹の『天主之番兵』へと引きつがれた。両紙は巻号も引き継がれ発行されており、タイトルは変更されたが内容は引き継がれたと考えてよいだろう。144号までマイクロフィルムで全号、冊子体では111号以降(欠号あり)を所蔵している。

一方、『公教萬報』と同年に京都で発行された『聖教雑誌』については、3号までしか発行されなかったこともあり、残念ながら本学では未だ所蔵していない。その後1889(明治22)年11月にドルワール・ド・レーゼ編集による『公教雑誌』が創刊された。この雑誌は布教とカトリック的教養をめざした雑誌で、42号まで発行された。その後巻号を引き継ぎながら『公教学術雑誌』更には『日本公教雑誌』へと誌名が変遷した。

もう1誌、明治期に刊行されたキリスト教雑誌として、忘れてはならないのは『聲』である。この雑誌は1891(明治24)年に創刊され、教会内各信者の連絡、報道の機関としての役割を果たしていた。創刊当初は京都で発行されていたが、1899(明治32)年に東京の三才社に発行所を移し、1912(明治33)年には教友社が発行所となった。昭和に入り、1929(昭和4)年にカトリック中央出版部が創設され、そのもとで発行されることとなった。やがて戦時を迎え、1941(昭和16)年、宗教団体法により日本天主教教団が設立され、中央出版部は解散し、これに代わり日本天主教出版社が創設され、『聲』の発行が続けられた。しかし、戦況の悪化に伴い1944(昭和19)年12月から1946(昭和21)年3月までは休刊となったが、翌4月よりカトリック中央出版社から復刊された。その後継続して発行されたが、残念ながら2002(平成14)年をもって『聲』は休刊となった。本学では1893(明治26)年発行の47号以降、休刊となっている最終号まで、若干の欠号はあるが製本の上、所蔵保管している。

この『聲』とは異なり、一般布教のための雑誌として1921(大正10)年に公教青年会によって創刊されたのが『公教青年会会報』である。これは1923(大正12)年に『公教青年会時報』に改められ、同年5月より『カトリックタイムス』と改題した。やがてカトリック中央出版部に委譲され、公教青年会は解散し、誌名も1931(昭和6)年には『日本カトリック新聞』と改称した。その後『聲』と同様に日本天主教出版社による発行が続けられたが、1945(昭和20)年2月より休刊となった。戦後1946年(昭和21)年2月に名称を『日本カトリック新聞』から『カトリック新聞』に変更し、復刊した(復刊1号は通号969号で1946年2月10日に教区連盟が編集、印刷・営業は中央出版社に委託する形で活動を再開)。その後1974(昭和49)年よりカトリック新聞社の発行となり、現在に至っている。

次に前述の公教青年会が発行していた『カトリック』から『世紀』に至る雑誌の変遷を確認しておきたい。『カトリック』は1920(大正9)年に公教青年会が『カトリック・タイムス』(後の『カトリック新聞』)と同時に発行していた雑誌であり、1929(昭和4)年にカトリック中央出版部の発行となり、

1939(昭和14)年には『カトリック研究』と改称される。発行も日本天主教出版社から1942(昭和17)年にはカトリック研究社の発行となった。戦時下では休刊を余儀なくされ、戦後『カトリック思想』と改称し、エンデルレ書店から発行された。1948(昭和23)年に一度廃刊となったものの、1949(昭和24)年『世紀』と改称し復刊した。しかし、この『世紀』も1994(平成6)年には編集長(赤波江春海神父)の死とともに休刊となった。

本学では『カトリック』『カトリック研究』『カトリック思想』、そして引き継がれた『世紀』は若干の欠号はあるがすべて所蔵している。

以上のように概観してみると、カトリック関係の逐次刊行物を休刊せずに継続して発行していくことは、相当な努力が必要であることが十分に推察される。

### 南山大学図書館の所蔵状況

さて、上述の歴史を経て現在に至っているわけだが、休刊・廃刊が多い中、現在国内で発行されているキリスト教関連の逐次刊行物が何タイトルあるかについては、所謂コマースベースではある程度把握が可能<sup>①</sup>である。しかし、それ以外のもの、例えば大学等の研究紀要や全国各地に存在する教会や修道会が発行している冊子類の網羅的把握については至難の業と思われる。本学図書館では約180タイトルのキリスト教分野の逐次刊行物(日本語のもの)を所蔵している。そこで現在継続受入している約40タイトルのうち、幾つかを簡単に紹介したい。興味のある方は是非図書館に足を運んでいただき、手にとっていただければと思う次第である。

①カトリック生活(請求番号 Z/190/Ka86、1952年以降を所蔵)

1946年8月創刊。

ドン・ボスコ社が発行する現代のカトリック教会の動向や人物を紹介している月刊誌。キリストの福音に基づいた信仰生活を深めるための聖書や典礼についての記事が連載されている。写真が多く用いられており、信徒でない人々にも教会と信仰生活を理解しやすいように編集されている。

②カトリック新聞(同 Z/190/Ka86、969号(1946年)以降を所蔵、マイクロフィルム版を2017号まで所蔵【共に欠号あり】)

1923年1月創刊。

宗教法人カトリック中央協議会新聞事業部が運営する週刊宗教新聞。国内のカトリック教会のニュース、バチカンや世界の教会ニュース、福音解説、人物紹介、書評、映画評論、催し物の情報提供などが掲載されている。

[前誌にあたる日本カトリック新聞については、298号(1931年)から968号(1945年)までを所蔵。マイクロフィルム版は273号(1931年)から969号(1945年)までを所蔵【共に欠号あり】]

③キリシタン文化研究会会報(同 Z/190/Ki54、1960年以降を所蔵)

1957年8月創刊。年2回刊行。会員配布。

上智大学キリシタン文化研究会発行のキリスト教研究雑誌。会員からの自由寄稿を中心に、短い論文、研究発表、調査報告、ニュース、新刊紹介などが掲載されている。当研究会からは他に年刊『キリシタン研究』や「キリシタン文化研究シリーズ(図書)」も発行しており、キリスト教研究の中心的役割を果たしている。

④神学ダイジェスト(同 Z/190/Sh62、第5巻(1967年)以降を所蔵)

1965年創刊。年2冊刊行。

上智大学神学会神学ダイジェスト発行委員が編集している、キリスト教を研究の中心とした神学研究雑誌。発行は100号を超えており、基礎神学・組織神学はもちろんのこと、ユダヤ教・イスラム教についての論文も掲載されている。

⑤聖母の騎士(同 Z/190/Se17、第7巻(1936年)以降を所蔵【欠号あり】)

前誌にあたる『無原罪の聖母の騎士』は長崎カトリック教報社により1930年5月創刊。

発行者の創始者はコルベ神父。1936年より現在の誌名となる。1941年には国策により一旦廃刊となったが、1947年1月に復刊。現在は聖母の騎士社(長崎)で発行されている。

注)『出版年鑑』(2007年版)によると、宗教関係の雑誌の発行数は82タイトルとなっている。また、『新聞雑誌総カタログ』(2007年版)によると、宗教分野の記載タイトル数は185タイトル、うちキリスト教関連タイトル数は約40タイトルが掲載されている。また、やや古いデータではあるが、日本カトリック大学連盟図書館協議会編『キリスト教関係逐次刊行物目録』(1992年刊)では281タイトルの和雑誌が掲載されている。

## おわりに

以上今回は、南山大学図書館に所蔵するキリスト教関係の逐次刊行物のうちのいくつかを紹介した。南山大学カトリック文庫に収納する図書については、詳細な分類区分を決定して整理を進める一方、逐次刊行物については保管スペースの問題もあり、通常の他の逐次刊行物と同様に整理して、雑誌閉架書架に配架している。将来的には館内にカトリック文庫専用となる、特定の書庫・書架を設けてキリスト教研究・教育の利用に供したいと考える。

最後に、本学のカトリック資料収集の結果として、今回紹介した資料を本号『カトリコス』の2～5ページに年代順ならびに発行者の系列別に年表としてまとめてみた。紙面の都合により年表が本文より前に掲載されることとなったが、合わせて参照していただければと思う。また、今後もキリスト教関連の図書および逐次刊行物資料のより充実した資料構築をめざし努力を続けていくにあたり、読者各位のご指導・ご教授を乞う次第である。

### 参考文献：

- 『出版年鑑 2007 年版』（出版ニュース社、2007 年）  
 『雑誌新聞総カタログ 2007 年版』（メディア・リサーチ・センター、2007 年）  
 日本カトリック大学連盟図書館協議会編『キリスト教関係逐次刊行物目録』（1992 年）  
 上智学院新カトリック大事典編集委員会編『新カトリック大事典』（1996 年-）

(KORO, Go ; KONDO, Mikio : 図書館事務課)

## 「資料寄贈者等（前号以降から 2007.10 まで）」

「カトリック文庫」充実のため、下記の方々より貴重な資料を寄贈していただきました。ここにお名前を掲載させていただき、改めて謝意を表したいと存じます。

[個人] 岡田多恵子氏、高田留奈子氏、青山玄氏

[団体] 神言神学院

### ≪カトリック関係資料 寄贈のお願い≫

本学図書館では、わが国におけるカトリックの歴史・文化・活動を知るために、関係資料の散逸、毀損を防ぎ、かつ広く研究者などへの利用を図ることを目的とし、「カトリック文庫」を 1993 年より設置し、下記の資料を収集しております。

- \* 教会刊行物（教会史誌・教会報、その他）
- \* 明治、大正、昭和初期のキリスト教関係出版物  
 （聖書・祈祷書・聖歌集・要理書 およびそれらの解説書、雑誌・新聞・布教資料、その他）
- \* 修道会史・教会史 および関係刊行物・資料
- \* 日本への布教に関する外国側資料

つきましては皆様方から資料の寄贈を賜りたく、ここにお願ひ申し上げます。

なお、資料は選書の上、本学図書館の蔵書として所蔵させていただくこととなりますので、ご了承ください。

南山大学図書館カトリック文庫通信

カトリコス第 22 号 2007. 11. 1 発行

南山大学図書館「カトリック文庫」委員会

編集委員：藤塚あつ子、岩間潤子

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/publication/katholikos/katholikos-index.htm>

E-mail: [library-n@nanzan-u.ac.jp](mailto:library-n@nanzan-u.ac.jp) TEL : 052-832-3707 FAX : 052-833-6986 担当者：近藤